

平成17年度筆記試験（小論文） 出題意図

本書の筆者は、障害者、女性、不登校者などの「社会的弱者」が「自分のことは自分で決められる」ようにするには、これらの人たちを客体ではなく主体と位置付けて「主権」を与えよとの視点が必要であり、社会の変革が重要であると主張している。

長文を読んで「当事者主権」提唱の意図ないし目的を的確に把握して簡潔にまとめるとともに（問1）これに対する自己の見解を、論理的かつ説得的に論じられるか（問2）が問われている。

問2において反論の想定を求めているのは、一面的な考察に陥らずに、対立する意見を考慮して説得力をもって論じてもらうためである。また、「民主主義」＝「多数決に基づく代表制」というのが一般的な理解であるが、本書の筆者は、多様性を認めて少数者の権利を尊重する意味での「ラディカルな民主主義」を提唱している。「当事者主権」との関連でポイントになるので、これへの言及を求めた。